

---

# 死者への冒涇

針井 龍郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死者への冒涇

### 【Nコード】

N1429D

### 【作者名】

針井 龍郎

### 【あらすじ】

俺は殺された。だが、望まぬ生還を果たす。

**（前書き）**

少しばかり残酷な描写とも取れる部分がございますので、注意されて下さい。

——暗い。ここはどこだ。俺は今、何をしている。どうして何も感じないんだ。

——気の遠くなるような痛み。抜けていく力。鼓動を止める臓器。流れてゆく、血、血、血。倒れたのは、赤い液体の上。

——思い出した。俺は死んだのだ。心臓を撃ち抜かれて即死だった。薄れゆく意識の中で、犯人の顔がちらりと見えた。俺が所長を務める研究所の、副所長だった。

——マア、それも全て今の俺にとってはどうでも良い事。生ある者は、いずれ必ず死を迎え、そして無に帰る。ただ、そのタイミングが予想外に早かっただけの事。

——ようやく休める。やすらかな永遠の眠りへ旅立つのだ……

「脳波レベル、覚醒状態へ移行」

「意識レベル、100に復帰」

——何だ、この声は。俺は死んだんじゃないのか。どうして人の声が聞こえるのだ。

「システム、全て順調です」

「よし、カメラ・アイのロックを解除しろ」

「了解。発声装置はいかなさいますか」

「かまわん、放っておけ」

——どういうことだ。俺は今どこにいる。何をしている。いったい、何が起きているというのだ。

「やあ、無様だねえ、所長」

——視界が突然戻った。目の前にヤツがいた。俺を殺した張本人が。

「いや、元所長と言った方が良いのかな。今ではこのボクが所長だから」

——なん、だと……？

「ふん、ボクに楯突くからこういうことになるんだよ。あの時、素直に所長の座をボクに譲っていたなら、命まではとらないであげたのに」

——どういうことだ！おい、お前！

「おっと、ムダだよ、ムダ。あんたのボディの連絡回路は、全て遮断してあるんだ。今のあんたは指一本、いや、アーム一本どころか、音すら出すことはできないのさ」

——ちくしょう、悪魔め！俺の体に何をした！

「くくく、あんたの考えている事なんか、声を聞かなくてもすぐに分かるよ。あんたはその脳がダメになるまで、ただの機械人形としてボクの奴隷になるんだよ」

——なっ……！？貴様、俺を一度では飽きたらず、二度も殺そうと言うのか！許さんっ！貴様は絶対に許さんっ！

「ふふふ、ムダだつて言ってるだろ？おとなしく従った方が身のためだぜ？あんたの命はこっちが握ってるんだ。スイッチ一つ切れば、全てのシステムがダウンし、あんたは10分と待たずに御陀おだぶつ仏さま、もつとも——」

「ガ……、ユ、ガガ……サン」

「っ！？発声装置が作動を始めている……？

おいっ！発声装置のロックは解除しないでいいと言ったろう！」

「いえっ！ロックはかかったままです！」

「なんだと……！？どけっ、ボクが見るっ！」

——許さん、許さん、許さんっ！俺の眠りを覚ます者は何人たりとも許さんっ！

「所長っ！右肩第一モーターが駆動を開始しましたっ！」

「左足首第三モーター、ロックできませんっ！」

「くそおっ！何としても止めるんだっ！リミッターを最大まで引き上げる！緊急停止スイッチを押せえっ！」

「ユル……サン、ガガ……ナンビトタリトモ、ユルサンッ」

「だめですっ！拒否されましたっ！完全に暴走していますっ！」

「リミッター、解除されますっ！」

——許さん、許さんっ！全員殺してやる！コロシテヤルッ！！

「ああっ！強化ガラス破られますっ！」

「なんだと……！？大砲で撃たれても耐えるという代物が……。かまわんっ！爆破だ！爆破しろっ！」

「だめです！こんな所で爆破すれば、全員爆死しますっ！」

「あああっ！！ガラスがっ！！」

——「コロシテヤルッ！ツブシテヤルッ！！

「う、わ、すまなかった、ボクが悪かったっ！許してくれ、な？許し……あ、ひ、あぎゃあっ！！！！！」

「あ、わ、誰か助けて……っ！」

「死にたくねえ……、死にたくねえよおっ！」

「うあああっ！」

——先ほど入りました情報によりますと、本日午後二時頃、。。。大  
学工学部の第四研究所、地下研究室内で、四人の他殺体と見られる  
遺体が発見されました。

亡くなっていたのは、同大学工学部助教授で、同研究所副所長の。  
。。。さん三十八歳、同大学院生の。。。さん二十二歳、同じく  
。。。さん二十四歳、同じく。。。さん二十五歳の計四名です。  
警察は殺人事件として捜査を続けておりますが、四人の死因が圧死  
ということや、その他にも奇妙な点が数多くあり、捜査は難航しそ  
うです。

また、同大学工学部教授で、同研究所所長の。。。さん四十二  
歳の行方が、一週間前から分からなくなっていて、警察は事件と何  
らかのつながりを持っている可能性があるとして、本格的に捜査を  
始めると言うことです。また詳しい情報が入り次第、お知らせいた  
します——

## （後書き）

初めまして、針井龍郎です。試しにこんなのも書いてみました。

むむむ……。何というか……。私の作品を初めて読む方には、大変な誤解を与えてしまいそうです。あくまでも、私の普段の作品はハッピーエンドがモットーなんで悪しからず。しみりする事はあっても、今回みたいにバッドエンドなのは珍しいです。

実はこの作品も本当は命の大切さを伝えたかったのです。殺人に対する罰、死者を冒瀆した者に対する罰、望まぬ生還を果たした者の嘆きがテーマだったのですが、見事に外してしまいました。上手く伝わるかどうか……。結局、上から読んでも下から読んでも、ホラーにしかないな（笑）。

今回は、セリフと一人称での思考のみの構成で、情景を表現する事に挑戦してみました。最後のまとめはニュース仕立てにしてみました。が、いかがでしたでしょうか？御意見、御感想、お待ちしております！

それでは、またどこかでお会いしましょう。以上、針井龍郎でした！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1429d/>

---

死者への冒涇

2010年10月11日16時46分発行